

# 育成 あさくち

平成27年1月5日  
浅口市青少年育成センター  
NO. 9

数年前、岡山県内のさまざまな分野で活躍する人に恩師の思い出を聞いて回ったことがある。取材で強く印象に残ったのは、何十年も前のことでも、多くの人が先生から掛けられた言葉やその時の状況を鮮明に覚えていたことだ。「あなたが書いた文章、良かったね」「あなたのそういうところを大事に下さいよ」…。それぞれの人が、先生の言葉を宝物のように胸にしまっていた。教師の側は忘れていくかもしれないほどのさりげない一言が、教え子の心に灯をともし、教師という職業の素晴らしさを感じさせられた。全国学力テストの結果が先月、発表された。岡山県の点数は芳しくなかったが、テストと同時に行われた児童生徒へのアンケートの中に、うれしい結果を見つけた。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」。今回初めて設けられた質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた県内の小学6年生は約83%、中学3年生は約78%に上った。それぞれ、全国平均の約80%、約74%を上回っている。テストの点数も大事だが、自分のことを認めてくれる先生の言葉や温かなまなざしの方が、どれほど人生の糧になるだろう。ペーパーテストは子どもたちの力の一部を測っているにすぎない。そんな当たり前のことを忘れないでいたい。

「下線は引用者による」（山陽新聞HP「滴一滴」より 2014年09月03日）

## 【年末特別補導を実施しました！】

12月25日（木）に年末特別補導を行いました。当日は浅口市青少年育成指導員の方と青少年育成センター職員の計9名で倉敷駅周辺とイオン倉敷店内で特別補導を行いました。店内やバスの中は大きな袋を持ったり、クリスマスの衣装を着たりした若者などで賑わっていました。特に気になる問題行動はありませんでしたが、ゲームセンターでの老若男女を問わず熱中している姿には、思わず圧倒されました。



## 【12月の青少年育成センター活動報告】

喫煙指導1人 交通マナー等注意6人 声かけ活動48人

## 【1月の行事予定】

定例補導 金光地区（21日） 鴨方地区（14, 20, 27日） 寄島地区（15, 29日）  
列車補導（9日） 高補連絡会（16日 笠岡市） 中学校連絡会（23日 中央公民館）



《研修会案内》（問合せ等は当センター ☎0865-45-8833まで）

「ストップ非行 未来に種まき リレーシンポジウム in 岡山」

1月17日（土）13:00~16:00 岡山市市民会館 入場無料（申し込みは不要です）

基調講演 ~立ち直り支援（雇用による）~ ・ ~学校の荒れや非行からの立ち直り~  
パネルディスカッション 「学校を中心とした非行を生まない取り組み」

# スマートフォンやゲームなどの夜の使い方について考えましょう

岡山県教育委員会

県全体で3つの取組を進めていきます！

- 保護者が午後9時以降はスマホを預かりましょう。
- ゲームも午後9時までとしましょう。
- 学校でスマホなどについて考える場を設けましょう。

本県の児童生徒のゲームの時間が増加し続けており、特に中学生では4人に1人が平日3時間以上テレビゲームをしている状況です。また、近年、ネット上のいじめや犯罪被害につながるケースもおこっています。

そこで、岡山県教育委員会では、PTAや学校、市町村教育委員会、小中学校長会等と連携した取組を進めていきます。



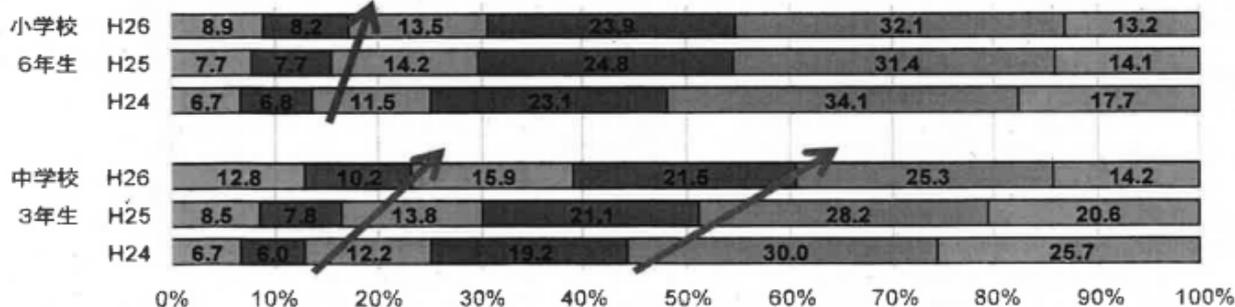
夜遅くまで、スマホで友達とやりとりをしているみたい。どうやって注意しようかしら……



眠いけど、ここで返事を返さないと、僕だけ、仲間はずれにされるかも……あー、面倒くさい。

●普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか ※「全国学力・学習状況調査」より

■4時間以上 ■3～4時間 ■2～3時間 ■1～2時間 ■1時間未満 ■全くない



家庭や学校で、ぜひ

- ① 子どもと保護者がスマートフォンやゲームの時間や使用等について話し合い、ルールをつくりましょう。
- ② 学級や生徒会などで、スマートフォンなどの使用について考えたり話し合う活動を行いましょう。



岡山県マスコット ももっち

「これ、かわいくない」。友達から・・・

「これ、かわいくない」。友達から贈られたぬいぐるみに、無料通信アプリ・LINE（ライン）でそう返事をした女の子。贈った友達の怒りを買って、仲間外れにされた本人は「かわいいよね」との意味で「かわいくない？」と書こうとしたが、「？」がなかったために誤解され、トラブルとなったのだ。コミュニケーション能力の未熟な子どもたちにとって、ちょっとしたことが落とし穴になる子どものスマートフォン・携帯の利用に詳しい兵庫県立大の竹内和雄准教授が先日、岡山市内の講演で紹介した事例だ。同大と山陽新聞社の調査で、インターネット上でのいじめ、写真の無断掲載といったトラブルが岡山県内の中学、高校の7割強で発生しているとの結果が出た。多機能のスマホの急速な普及で、子どもへの危険性は飛躍的に高まった。低年齢化が進み、今や小学校までトラブルの舞台となっている。特に小学4年が目だ。急にスマホ・携帯の所持率が上がるという。学童保育を終える、塾通いや習い事が始まるといったきっかけで、危険が潜むことを知らぬまま、連絡用に持たせるケースが多いようだ。わが子を心配し、よかれと思って渡したスマホで、子どもが被害に巻き込まれる。そんな皮肉な状況が増えていることを竹内氏は警告する。まずは親が危険性を認識せねば。

（山陽新聞さんデジ 滴一滴 2015年01月18日 08時51分 更新） 下線は引用者による



## 【1月の青少年育成センター活動報告】

声かけ活動60人 金光駅西駐車場の不法駐輪（管理会社へ善処依頼済み）、駅トイレのマナー違反やちびっ子広場のトイレトペーパーを焼いたり、八重公園内で物を燃やしたりした報告等がありました。

## 【2月の行事予定】

笠岡・浅口市青少年育成センター合同視察研修会（5日四国少年院 事前申込みされた方）  
定例補導 金光地区（3, 17, 26日）鴨方地区（4, 12, 25日）寄島地区（10, 19日）  
青少年育成活動協議会・育成指導員連絡協議会研修会（20日健康福祉センター3階）  
上記研修会に皆さん、お誘い合わせのうえ奮ってご参加ください。ともに学びましょう！  
講師は、興譲館高等学校 副理事・学校長「小谷 彰吾」先生です。詳細は、別途案内済みです。

森が燃えていました 森の生きものたちは われ先にと逃げていきました

でもクリキンディという名のハチドリだけは いったりきたり

口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは 火の上に落としていきます

動物たちがそれを見て

「そんなことをして いったい何になるんだ」といって笑います

クリキンディはこう答えました

「私は、私にできることをしているだけ」

「ハチドリのひとしずく」辻 信一訳 光文社より

どんな小さなことでも、まずは始めることが大切

それはやがて大きな力へと結集されて、課題解決の一步となるのではないのでしょうか。



### 「ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました」から学ぶこと

岡山県立倉敷天城中学校2年 赤堀 由季

「ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました」とは、2013年度新聞広告コンテストの最優秀作品です。初めて目にした時、「あっ、そうきたか!」と強い衝撃を受けました。桃太郎は仲間を増やし、悪い鬼を退治し、「めでたし、めでたし」となりますが、あくまでも桃太郎の視点から描かれた内容です。退治された鬼の子の立場から考えると、全く逆になります。

ある人にとって、「しあわせ」を感じることで、別の人からみれば、そう思えないこともあります。立場が変わると、「しあわせ」は変わるのです。みなさんは、どんな時に「しあわせ」を感じますか？

私が、しあわせを感じるのは、おいしいものを食べた時。試合で、シュートを決めた時。心から笑えた時。自分が大切な人、大切な物とかかわる時……。当然のことですが、しあわせの定義は、人それぞれで正解があるはずがありません。

物語の中の桃太郎と鬼の子が、平等に「めでたし、めでたし」を手にするには、勝ち負けや矛盾が必要になるのでしょうか。私は、必ずしも、必要になるとは思いません。

例えば、現実の社会において、試験に無事合格し、幸福感で満たされている人がいる反面、思うような結果が出せず、不幸のどん底にいる人もいます。合否の差で、仲が良かった友人と、なんとなく気まずくなってしまいうこともあります。合否で、人生が大きく変わったという話も聞きます。しかし、失敗や負けは、すべてマイナスになるのでしょうか。私は、そうは思いません。無理だとわかっている、挑まなければならない勝負もあります。全力を出し切り、潔く負けることは、決してマイナスではありません。結果は、1つの通過点であり「その後、どう行動するか」が、最も大切だと思います。

また、物語の語り手は最後、「めでたし、めでたし」と言っていますが、それが世の中全体に言うものであれば、矛盾していることになります。なぜなら、鬼にとっては「めでたし、めでたし」という結末ではないからです。現実の社会で、もしこのような矛盾が生じた場合、どうすればよいのでしょうか。

例えば、最近の若者は、モラルが低下しているといわれます。個人の意志が重視され、自由が尊重されますが、行き過ぎると社会のルールに従うのも従わないのも、自分の自由だと考える人が増えたのではないのでしょうか。公共のマナーや、モラルの問題は、個人によって感じ方の差が大きいです。我が物顔に振る舞うことで、満足しているかもしれません。しかし、それを受けとめている周囲の不快感を忘れてはいけません。社会的に規制する方法もあるのですが、1人1人の少しの配慮や遠慮があれば、とりまく空気は、穏やかになるでしょう。社会生活で、配慮することや、遠慮することが、矛盾と共存する潤滑剤になるでしょう。

「ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました」という作品を通じて、私は自分の中に様々な視点を持つことの大切さを学びました。自分の思い込みや、常識にしばられすぎてはいけません。視点や立場を変えて、物ごとを考えれば、解釈に幅が生まれます。もし、何か問題が発生しても、解決方法の選択肢が増えます。視点や立場を変えて物ごとを見ることで、自分とは違う立場にいる人を、可能な限り理解することができます。また、物ごとの全容を知ることができます。これらのことは、言葉や文化の違い、より多くの人々との相互理解にも役立つはずです。

最後に、桃太郎のお話は、一方通行の「めでたし、めでたし」で終わってしまいます。桃太郎も視点や立場を変えて、物ごとを見ていけば、鬼の子の存在に気づき、力づくで鬼退治をせず、他の解決方法を考えていたかもしれません。そうすれば、鬼の子も泣かずにすんだでしょう。しあわせになれたでしょう。



赤堀さんを独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する「第36回少年の主張全国大会」出場候補者として推薦しました。全国大会は、11月9日（日）国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）で開催され、各都道府県から推薦された最優秀者の内、選ばれた12名が発表を行います。

毎月第3日曜日は家庭の日ーきょうは家族のふれあい日

# 育成 あさくち

平成27年3月2日  
浅口市青少年育成センター  
NO. 11

## 【育成指導員視察研修に行ってきました！】

2月5日(木)に笠岡青少年育成センター指導員、浅口市青少年育成指導員の方々と両青少年育成センター職員、総勢28名で香川県善通寺市の四国少年院を訪問し、合同視察研修に行ってきました。

### 【在院少年の特質】

家庭が拠り所となっていない。

社会生活に必要な基本的な力が育っていない。

自尊感情が乏しい

青少年の健全育成・非行防止の観点から青少年への支援の参考になる研修内容でした。



## 【青少年育成活動協議会研修会】

2月20日(金)に浅口市健康福祉センター多目的ホールにて、「浅口市青少年育成活動協議会研修会」を開催しました。当日は、「明るい家庭づくり作文」優秀者による作文発表、興譲館高等学校 副理事長・学校長の小谷彰吾先生による「命とチームがキーワード～家庭・学校・地域でよりよい習慣をつくる～」というご講演では、家庭・学校・地域の「三本の支え木」がバランスよく融合して、子ども達の健全な成長につながる土壌をつくる。「命」と「チーム」を教え、「よりよい習慣づくり」へと導いていくことこそが大人に課せられた使命だと、日ごろの学校経営の実践を踏まえた話がありました。 小谷先生からのエール:「チーム浅口！」



(優秀作文 発表者)

- ・寄島小学校1年 三宅 瑛大さん 4年 宇野 愛梨さん
- ・六条院小学校5年 黒川 歩乃さん 6年 中野 太智さん
- ・鴨方中学校1年 堤 尚虎さん

以上3校5名の皆さん、作文発表ありがとうございました。



## 【学年末休業日】

公立小・中学校の修了式が、3月26日(木)に予定されています。27日から学年末の休業に入ります。学年が変わり、それぞれ進級、あるいは卒業して新生活に臨みます。春になり、気持ちの良い季節になりますが、気の緩みからの事故等も懸念されます。地域での見守り、声かけ活動など地道な取り組みが、大きな事件、事故の抑止につながります。浅口市青少年育成指導員の皆様も地域や学校での活動をよろしく願います。

なお、公立小中学校の始業式は4月7日の予定です。

## 【2月の青少年育成センター活動報告】

喫煙指導 1人 交通マナー指導 4人 声かけ活動 47人

## 【3月の行事予定】3月は「青少年健全育成強調月間」「自殺対策強化月間」です。

定例補導 金光地区(12,17日) 鴨方地区(3,5,18,24日) 寄島地区(10,26日)

青少年健全育成 街頭キャンペーン寄島地区テント村 開村(11日 17時~)

## 【平成26年度 育成センター相談活動実績】

2月末現在、7件延べ20回 (「広報あさくち」を見て来所された方が多かったです。)

## 【玉島少年警察協助力員 平成26年度 表彰】(浅口市関係者)

次の方々が長年に亘る顕著な活動が認められ受賞されました。おめでとうございます。

藤澤 繁行様(栄誉協助力員) 「全国少年補導功労者 栄誉金賞」

山内 悦子様(鴨方中班) 「中国少年補導員連絡協議会少年補導功労者」

柚木 雅之様(鴨方中班) 「岡山県少年警察協助力員会連合会長表彰」

木山 洋子様(金光中班) 「岡山県知事表彰」

加藤 淳二様(鴨方中班) 「岡山県備中県民局長表彰」



## 【青少年育成センター職員より】

所長 飯田 秀男

過日、帰宅する途中、近所の方とあいさつを交わしました。「こんばんは」「どこにお勤めか?」「浅口市教育委員会です。」「お世話になりますなあ。」些細なあいさつの中に、地域の奉仕者としての責任を感じた瞬間でした。果たして、地域の青少年の健全育成に携わる身として十分な活動をしてきたのだろうか・・・

専任指導員 松岡 干城

「こんにちは、お久しぶりです。」先日ある場所で声をかけてもらいました。仕事先や名前など分かりませんが30歳代の女性です。1年半位前から、会ったら朝夕のあいさつのみでしたが、時々季節のあいさつを添えて返すようにしました。最初は返礼のみでしたが、段々言葉が柔らかくなり「はい、ありがとうございます。」など気持ちよいあいさつができるようになりました。

朝から「お母さんゲームしてもいい」、「それ僕に貸して」、「これ私のだから」そして喧嘩、てんやわんやの毎日です。コントロールしているのは、お母さんです。子どもたちの様子や表情の変化を感じて、怒る・喜ぶ・誉めるなどを繰り返しながら気丈に子育てをしているお母さんがいます。昨今、子どもにコントロールされているお母さんが増殖していませんか。

7年間、育成(補導)活動に携わっています。最近子どもたちの変化について非常に気になっていることがあります。その1は、目上の人に対する言葉遣い、その2は自己中心的な行動など数多くあります。例えば、多目的トイレの中に長時間入り、喫煙・洗髪や優先席の居座り等、その場所を必要としている人がいます。自分がその立場になった時の気持ちはどんなだろう。

「山陽新聞 HP 配信 記事より」 2014 年 10 月 27 日 07 時 59 分 更新

岡山県教委が 11 月から、県内の小中学生に午後 9 時以降、スマートフォン・携帯電話を親に預けて利用を制限する統一ルールを設けることにした。全国的に基礎自治体や P T A によって同様のルールづくりが広がりつつあるが、県教委が主導してスマホ・携帯の利用制限を全県的に行うのは全国で初めてという。

子どもたちへのスマホ・携帯の普及に伴い、誹謗（ひぼう）中傷やいじめ、犯罪に巻き込まれるといったトラブルが多発している。長時間使用することで、生活習慣の乱れや学力低下といった問題も広がってきた。利用の低年齢化が急速に進み、状況は深刻化しており、対策は急務である。具体的内容や手法に議論はあろうが、県教委が問題解決に踏み出したことは評価できよう。

統一ルールは、保護者が午後 9 時以降に子どものスマホ・携帯を預かる ゲームの利用時間は午後 9 時まで スマホ・携帯との付き合い方を学校で考える場を設定する の 3 点である。強制力はないが、各市町村教委へ通知し、各地で広めてもらう意向だ。

先日も熊本市の県立高校の女子生徒が、スマホなどの無料通信アプリ・LINE（ライン）の書き込みなどを通じたいじめで昨年 8 月に自殺していたことが判明した。スマホ・携帯の利用時間が長いほど学力テストの成績が悪いという結果も出た。機器は日々進化し、興味を一層あおる。子どもたちを取り巻く環境はどんどん悪化しているが、対策は遅れているのが実情だ。

子どもたちはグループをつくりラインなどで通信し合っている。友達からのメッセージに返信しなければ、仲間外れや批判の対象となる恐れがあり、夜遅くまでやりとりがやめられない原因となっている。家庭だけでは対策はとりにくく、学校や保護者らが足並みをそろえていく必要がある。その指針として、統一ルールづくりは意味があろう。

4 月から利用制限を実施している愛知県刈谷市では、保護者から「深夜まで使う子どもを注意する大義名分になる」、子どもたちからは「深夜のラインを断る口実ができた」と歓迎の声が出ているという。一方で、市外に住む友達にはルールが適用されないといった問題点も指摘されている。今回、岡山県全域が対象となれば、市域を超えて対応しやすくなる面はある。

ただ、県教委の統一ルール設定はあくまでも問題解決の契機と考えるべきだろう。いくら上から規制しても、守られなければ意味がない。子どもたちが便利さの裏に潜む危険を認識し、適切な使い方やルールを自分たちで考えていくことが必要である。

倉敷市で今夏、中学生代表が集まりネット依存への対処法などを話し合った。こうした話し合いの場を広げるとともに、学校や P T A、地域組織など含めて県民運動的に取り組んでいくことが求められよう。（下線は引用者による）